

「命を守るために備え」

城南校区で避難訓練

新宮市立の王子幼稚園、王子ヶ浜小学校、城南中学校は13日、合同で毎年恒例の避難訓練を行った。園児、児童、生徒を合わせた約600人と、教職員、保護者、地域住民、関係者が参加。地震・津波の発生を想定し、同小学校から近大新宮高校・中学校のグラウ

ンドへと避難した。同小学校をスタート地点とし、地震の揺れが収まるまでの時間を待った後、避難を開始した。実際の避難の際は、同中学校の生徒が、同幼稚園の園児、同小学校の1、2年生の介添えを予定しており、訓練も同様に行った。同中学校の生徒は同

小学校で待機。揺れが収まるのを待って行動を開始した。同小学校の中高学年の児童らは、教職員や地域住民の先導に従い、急ぎ足で避難した。同中学校の生徒は、同幼稚園の園児や同小学校の低学年の児童の手を引いた。清水元の交差点を通り、東仙

寺を抜けて近大附属新宮高校・中学校に至った。避難時間は約24分だった。

新宮市防災対策課の丸本和敬さんが講評。避難の心得である「押さない」「走らない」「しゃべらない」を表す「おはし」を紹介したうえで、「3つともよく守れていた。ずっと訓練を行い、避難できるようになりましょう」と呼び掛けた。新宮

警察署の木村光太郎警備課長も講評。避難三原則に基づき「自分からすすんで、早く高いところへ。大人が大丈夫と言っているだけでも、高いところへ移動する努力を」と求めた。

城南中学校の中田善夫校長も講評。「真剣に協力して避難できていた」とたたえたほか、知人が東京都で地震に遭遇し、訓練通りに避難できたこ

幼少中が合同実施

などを紹介。「自然に避難ができるのは訓練のおかげ。地震津波はいつでもどこで起きるか分からない。普段からここが安全

か、よく見て備えを。備えあれば憂いなし。大切な命を守るためにも訓練を」と語った。(瀬戸正善)



児童が急ぎ足で避難